

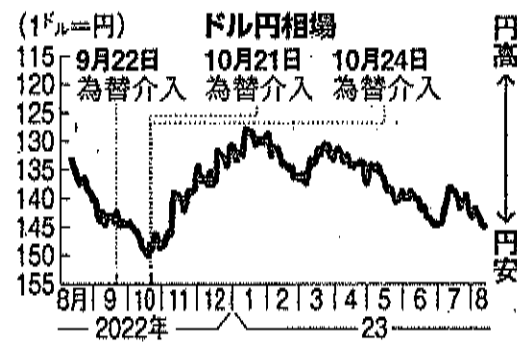
# 円安一時145円20銭台

## 今年最安 為替介入時に迫る値

14日の東京外国為替市場で円安ドル高が進み、円相場は一時、今年最安値となる1ドル145円20銭台まで下落した。政府と日本銀行が昨秋、24年ぶりに円買いドル売りの為替介入をした日につけた144.5円台後半に迫っている。日銀総裁が為替の動きに異例の言及をする中、市場は政府、日銀がどう動くか、注目している。

## 米国の利上げが要因

午後5時時点では1ドル144円79.81銭で、先週末10日の同時刻よりも1円ほどの円安ドル高だった。午前には一時、昨年11月以



来、9カ月ぶりの円安水準をつけた。このところの円安の主因は、物価高を抑えるための米国の利上げが、長引くとの見方が強まっているからだ。

米国の中央銀行にあたる米連邦準備制度理事会(FRB)は昨春から始めた利上げを6月、いったん停止した。だが、物価高を抑えるには不十分だとして7月に再開を決定。市場は、利上げはこれで終わると受け止めたものの、11日公表の米国の消費者物価指数の上昇率が再び加速した。

このため、まだ利上げは続くとの見方が広がり、金利を低く抑えている円を売って、金利がさらに高くなることが見込まれるドルを

買う動きが強まった。市場では、円安はさらに進むとの見方もある。三井住友DSアセットマネジメントの市川雅浩氏は「米国の経済は底堅く、FRBの利上げが年内にあと1回は見込まれ、緩やかに円安が続く可能性はある。まずは145円台が定着するかがポイントだ」と指摘する。(多鹿ちなみ)